

## 令和3年度 第2回千歳市公営企業経営審議会 会議録

日 時 令和3年10月22日（金） 14：00～15：30

場 所 千歳市水道局2階会議室

出席者 別紙名簿のとおり

### 1 公営企業管理者挨拶

### 2 開会

### 3 議事

#### (1) 報告事項

- ①令和2年度千歳市水道事業会計決算について  
資料に基づき内容を説明。

(説明者)

経営管理課財政係 櫻井主任

#### 【質疑等】

##### (委員)

石狩東部広域水道企業団のうち江別市が千歳川からの受水量を減らすと聞いており、料金等に影響があると思うがどのように考えているか。

##### (事務局)

石狩東部広域水道企業団は漁川系と千歳川系とで会計を分けて経営しているのが実態である。千歳川系については、江別市は受水量の割合が非常に少なく、仮に水量を下げたとしても、現段階では経営に大きな影響を与えるような変化はないものとする。

- ②令和2年度千歳市下水道事業会計決算について  
資料に基づき内容を説明。

(説明者)

経営管理課財政係 佐藤係長

#### 【質疑等】

##### (委員)

以下の3点について伺う。

- ・水道の給水人口及び給水戸数と下水道の処理区域内人口及び排水戸数が異なるのはなぜか。
- ・両事業において、耐震性について震度2レベルで大丈夫なのか。
- ・下水道に関して、局地的な降雨にどのくらい耐える施設となっているのか。

(事務局)

1点目に関して、戸数の違いについてであるが、水道については、東千歳などの農村部にも給水していることから、下水道に比べ戸数が多くなっている。下水道については、市街地が対象区域となっているため、水道との戸数に差異が生じている。

2点目に関しては、施設の耐震性としてレベル1、レベル2という形で説明している。レベル1とは、施設の供用期間中に発生する可能性が高い地震であり、レベル2とは最大規模の地震を示したものである。よって、震度とは異なる。

3点目に関して、局地的な降雨については、当市においても平成26年9月に大雨特別警報が発令され、支笏湖方面等で大きな被害があった。また、市街地では道路などで一部冠水があったものの、床下浸水や床上浸水の被害がほとんどなかったのが当時の実態である。市街地では現在、清水町、幸町、千代田町、栄町地区を中心に雨水管の増強管を布設しているところであり、雨水を円滑に処理できるよう整備を進めている。この浸水対策の整備を講じていくことで、被害リスクは少なくなるものと考えている。

#### 4 その他

(委員)

千歳の水を名水ということで販売することはできないのか。

(事務局)

以前、市政施行50周年記念でペットボトル入りの水を作り、イベントや会議で配布したことがある。しかしながら、1本あたりの製造単価が高く、市販のミネラルウォーターより高額となった。水道水をペットボトルにそのまま入れて販売することはできず、製造業者に頼み熱処理やろ過を行い、ボトルに賞味期限を記載する必要があることなど、衛生面での安全が保証される状態にするための処理コストがかかるため、販売は難しい状況であり、採算が取れないのが現状である。

公営企業であるのでペットボトルに入れて販売することは事業としては可能であるが、販売することにより赤字になることは公営企業の健全経営というところでマイナスになってしまう。採算が合えば事業として良いかと思うが、現状では委託による経費が多くかかるため、収支が合わず、販売を行っていないというのが現状である。

(委員)

石狩東部広域水道企業団から受水している漁川系と千歳川系、当市の内別川の水はどのように供給しているのか。供給している地区は固定されているのか。

(事務局)

漁川系統の水道水は、1日4,000トンとして上長都高架配水池で受水し、主として上長都地区に配水され、千歳川系統の水道水は、1日3,000トンとして臨空工業団地配水池で受水し、主として真々地、本町地区に配水している。その他の地区は、内別川系の水道水が配水されているというのが大まかな範囲である。水道管は、全てつながっており、需要量の変化によって、水道管内の水の流れが変わる。場合によってはブレンドされて供給されることもあり、地区を固定して給水されていることではない。

#### 5 閉会

以上